

# 滝尻遺跡

2001年3月

河内長野市教育委員会  
河内長野市遺跡調査会

## 序 文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、豊かな自然に恵まれ、高野街道に代表される和歌山や奈良へ向かう街道の要衝として発展してきた街です。このため市内には数多くの文化財が残されています。

このような河内長野市は、大阪市内への通勤圏に位置しているため、住宅都市として発達してきました。この住宅開発がもたらした文化財や自然に対する影響も大きいものがあります。とくに、地下に眠る埋蔵文化財は開発と直接に結び付く大きな問題です。

遺跡に託されている河内長野の先人達のメッセージである文化遺産を保護・保存し、さらには未来の市民へ伝えていくことは、現代に生きる私達の責務であります。河内長野市に於いては、重要な課題である開発と文化財保護との調和のため、開発に先立ち埋蔵文化財の発掘調査を実施し、その把握に努めています。

本書は発掘調査の成果を収録しています。皆様が先人達の残したメッセージの一部でもある文化財に対するご理解を深めていただくとともに、文化財の保護・保存・研究するための資料として活用していただければ幸いです。

これらの発掘調査に協力していただきました施主の方々の埋蔵文化財への深いご理解に末尾ながら謝意を表すものです。

平成13年3月

河内長野市教育委員会

教育長 福田弘行

## 例 言

1. 本書は平成13年度に実施した(仮称)淹畠浄化センター建設工事に先立ち、河内長野市教育委員会と河内長野市遺跡調査会が河内長野市都市建設部下水道工務課の依頼並びに委託を受けて実施した淹尻遺跡(TKZ00-1)の発掘調査についての報告書である。
2. 調査は河内長野市教育委員会教育部社会教育課主幹兼文化財保護係長尾谷雅彦、同係鳥羽正剛、太田宏明の指導のもとに実施し、内業調査については河内長野市立ふれあい考古館館長中西和子が補佐した。
3. 本書の執筆・編集は鳥羽が行い、杉本祐子がこれを補佐した。
4. 遺物及び遺構の一部の写真は中西が撮影した。
5. 発掘及び内業整理については河内長野市遺跡調査会が実施し、下記の方々の参加を得た。(敬称略)  
大塚美幸、大西京子、喜多順子、斎田菜緒子、中村幸子、枡本裕子、松尾和代、牟田口京子
6. 調査については下記の方々の指導・協力を得た。記して感謝する。(敬称略)  
淹畠地区自治会、株式会社アート、株式会社日本テクノ、藤田徹也(ふれあい考古館館員)、岡本 洋(立命館大学大学院生)
7. 本調査の記録はスライドフィルム等でも保管しており、広く一般の方々に活用されることを望むものである。

## 凡 例

1. 本報告書に記載されている標高はT Pを基準としている。
2. 土色は『新版標準上色帖』による。
3. 平面測量は国上座標第VI系による5mメッシュを基準に実施した。
4. 図中の北は座標北である。
5. 本書の遺構名は下記の略記号を用いた。  
SK…土坑 SP…ピット SY…窓状遺構
6. 遺物名は土師質土器を土師質、瓦質土器を瓦質、須恵質土器を須恵質と略称し、器種名を付した。
7. 遺構の実測図の縮尺は、1/20・1/60・1/100とした。
8. 遺物の実測図の縮尺は、土器1/3・1/4、銅錢原寸とした。
9. 須恵器、瓦器、瓦質土器、須恵質土器、陶磁器の断面は黒塗り、縄文土器、土師器、土師質土器の断面は白抜きである。
10. 実測図の遺物番号と写真的それは一致する。
11. 本文中の分類、編年は、須恵器については中村浩氏の陶邑編年、瓦器塊については尾上実氏の和泉型瓦器塊の編年、中世土器については鶴柄俊夫氏の編年を用いた。なお、器種名は本調査会の表記によるものとする。

## 目 次

|             |    |
|-------------|----|
| 序文          |    |
| 例言          |    |
| 凡例          |    |
| 目次          |    |
| 挿図目次        |    |
| 表目次         |    |
| 図版目次        |    |
| 第1章 はじめに    | 1  |
| 第1節 調査に至る経過 | 1  |
| 第2節 位置と環境   | 4  |
| 第2章 調査の結果   | 5  |
| 第1節 概要      | 5  |
| 第2節 基本層序    | 6  |
| 第3節 遺構と遺物   | 9  |
| 第3章 まとめ     | 14 |

## 挿 図 目 次

|                         |     |
|-------------------------|-----|
| 第1図 河内長野市遺跡分布図(1/40000) | 2   |
| 第2図 遺跡位置図               | 4   |
| 第3図 調査区位置図(1/5000)      | 4   |
| 第4図 調査区十層断面実測図(1/60)    | 6   |
| 第5図 遺構配置図(1/100)        | 7～8 |
| 第6図 S K 1・3・6・9出土遺物実測図  | 9   |
| 第7図 S Y 1 遺構実測図(1/20)   | 12  |
| 第8図 包含層出土遺物実測図          | 13  |

## 表 目 次

|                |   |
|----------------|---|
| 第1表 河内長野市遺跡地名表 | 3 |
|----------------|---|

## 図 版 目 次

図版1 調査区全景

図版2 調査区全景(西から)、調査区全景(東から)

図版3 調査区北部(西から)、S Y 1(東から)

図版4 遺物 SK 1(4)、SK 3(1・2)、SK 6(6)、SK 9(3・5・7)  
包含層(8・9・11~15)

図版5 遺物 包含層(16~22・24~29・31~39)

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査に至る経過

当該調査は、平成12年度に河内長野市都市建設部下水道工務課(以下、「市」という。)を事業主体とし、(仮称)滝畠浄化センター建設工事に先立つ事前調査として行われたものである。

平成11年度、市は当該地において(仮称)滝畠浄化センターを建設するにあたり、河内長野市教育委員会(以下、「市教委」という。)に対し、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地であるかどうか照会があった。これを受け、市教委は遺跡の範囲外ではあるが、河内長野市開発指導要綱の文化財の取り扱い条項に基づいて、試掘調査の必要がある旨、回答した。その結果、平成12年6月12日、市教委に試掘調査の依頼があり、これを受け、市は河内長野市遺跡調査会(以下、「調査会」という。)を調査機関として紹介した。市は調査会に試掘調査を依頼し、平成12年7月28日、市と調査会は調査委託の契約を締結した。

平成12年7月31日から平成12年11月30日にかけて、試掘調査を行った。試掘調査で、サヌカイト片や中世の遺構、遺物が認められた。

当該地について遺跡の新規発見手続きの必要が生じた為、市は市教委經由、大阪府教育委員会(以下、「府」という。)宛に文化財保護法第57条の5による遺跡の新規発見の通知を提出した。その結果、府から事前に発掘調査を実施するようにとの指示を受けた。市教委は市から発掘調査依頼を受け、試掘調査の実施機関である調査会に委託することを提案した。そして、平成12年10月26日、調査会に発掘調査を依頼し、平成12年12月4日、調査にかかる協議が整い契約を締結した。

平成12年12月5日から平成13年3月28日にかけて発掘調査を実施した。その結果、縄文土器、古代の土器、中世の遺構及び土器が出土した。

整理作業についても、市は試掘調査、発掘調査を実施した調査会に整理作業を依頼し、平成13年1月11日、市と調査会は委託契約を締結した。整理作業は、平成13年1月12日から平成13年3月28日にかけて実施し、すべての業務を完了した。



第1図 河内長野市遺跡分布図(1/40000)

| 番号   | 文化財名称      | 種類     | 時代        | 番号    | 文化財名称   | 種類       | 時代       |
|------|------------|--------|-----------|-------|---------|----------|----------|
| 1    | 長野神社遺跡     | 社寺     | 室町以降      | (73)  | 葛城第18縣塚 | 古墳       | 平安以降     |
| 2    | 河合寺遺跡      | 社寺     | 平安以降      | (74)  | 葛城第19縣塚 | 古墳       | 平安以降     |
| 3    | 誠心寺遺跡      | 社寺     | 平安以降      | (75)  | 筆尾塚     | 城館       | 中世       |
| 4    | 大御園山古墳     | 古墳     | 古墳(後期)    | (76)  | 大武塚     | 城館       | 中世       |
| 5    | 大師山南北古墳    | 古墳     | 古墳(後期)    | (77)  | 三國山界塚   | 疑冢       | 平安以降     |
| 6    | 大師山遺跡      | 集落・生産  | 弥生(後期)・平安 | (78)  | 光澤寺遺跡   | 社寺       | 中世以降     |
| 7    | 奥禅寺遺跡      | 社寺     | 中世以降      | (79)  | 猿子城跡    | 城館       | 中世       |
| 8    | 鳥帽子形八幡神社遺跡 | 社寺     | 室町以降      | (80)  | 蟹井浦神社遺跡 | 社寺       | 中世以降     |
| 9    | 塚穴古墳       | 古墳     | 古墳(後期)・近世 | (81)  | 川上神社遺跡  | 社寺       | 中世以降     |
| 10   | 長池窓跡群      | 生産     | 平安～近世     | 82    | 平代田神社遺跡 | 社寺       | 中世以降     |
| 11   | 小山田1号古墓    | 古墓     | 奈良        | 83    | 向野遺跡    | 集落・生産    | 編文・平安～近世 |
| 12   | 小山田2号古墓    | 古墓     | 奈良        | 84    | 古野町遺跡   | 散布地      | 中世       |
| 13   | 延命寺遺跡      | 社寺     | 平安以降      | 85    | 上原北遺跡   | 集落       | 中世       |
| 14   | 天野山金剛寺遺跡   | 社寺     | 古墳        | 86    | 大日寺遺跡   | 社寺・古墳・古墳 | 弥生～中世    |
| 15   | 日野觀音寺遺跡    | 社寺     | 生産        | 87    | 高岡南遺跡   | 散布地      | 謙倉       |
| 16   | 地藏寺遺跡      | 社寺     | 中世以降      | 88    | 小塙遺跡    | 生産       | 編文・奈良    |
| (17) | 谷羽寺遺跡      | 社寺     | 平安以降      | 89    | 加坂遺跡    | 集落       | 古墳(後期)   |
| 18   | 五ノ木古墳      | 古墳     | 古墳(後期)    | 90    | 尾崎遺跡    | 古墳       | 古墳～中世    |
| 19   | 高向遺跡       | 集落     | 白石藩・中世    | 91    | ショウマエ遺跡 | 城跡?      | 中世       |
| 20   | 鳥帽子形城跡     | 城跡     | 中世～近世     | 92    | 王山城跡    | 城館       | 中世       |
| 21   | 高多町遺跡      | 集落     | 経文・古墳～中世  | 93    | タコラ城跡   | 城館       | 中世       |
| 22   | 鳥帽子形古墳     | 古墳     | 古墳(後期)    | 94    | 界立城跡    | 城館       | 中世       |
| 23   | 木店窓跡       | 生産     | 中世        | 95    | 上原近世瓦窯  | 生産       | 近世       |
| 24   | 塙谷遺跡       | 散布地    | 編文・近世     | 96    | 市町東遺跡   | 散布地      | 弥生・中世    |
| 25   | 流谷八幡神社     | 社寺     | 平安以降      | 97    | 上田町窓跡   | 生産       | 中世       |
| 26   | 蟹井浦南遺跡     | 散布地    | 中世        | 98    | 尾崎北遺跡   | 集落       | 古墳～中世    |
| 27   | 蟹井浦北遺跡     | 散布地    | 中世        | 99    | 西之町遺跡   | 散布地      | 中世       |
| 28   | 大見駅北方遺跡    | 散布地    | 中世        | 100   | 野間里遺跡   | 集落       | 平安       |
| 29   | 千早口駅南遺跡    | 社寺     | 中世        | 101   | 鳴尾遺跡    | 散布地      | 中世       |
| 30   | 岩瀬豪帥寺遺跡    | 社寺     | 中世以降      | 102   | 上田町中遺跡  | 散布地      | 古墳・中世    |
| 31   | 清水遺跡       | 散布地    | 中世        | 103   | 小野塙遺跡   | 集落       | 古墳・中世    |
| 32   | 伝「仲哀廟」占墳   | 古墳?    |           | 104   | 島城第17縣塚 | 古墳       | 中世       |
| (33) | 草村地蔵堂跡     | 社寺     | 近世        | (105) | 島城遺跡    | 経塚       | 平安以降     |
| (34) | 蓮畑埋埴跡      | 古墳     | 近世        | 106   | 西師堂跡    | 社寺       | 中世以降     |
| (35) | 中村阿弥院堂跡    | 社寺     | 近世        | 107   | 野作遺跡    | 生産       | 中世       |
| (36) | 東の村觀音堂跡    | 社寺     | 近世        | 108   | 寺元遺跡    | 集落・社寺    | 奈良・中世    |
| (37) | 西の村觀音堂跡    | 社寺     | 近世        | (109) | 鳴原遺跡    | 散布地      | 中世       |
| 38   | 清水阿弥陀堂跡    | 社寺     | 近世        | 110   | 法師寺古墳   | 古墳       | 古墳       |
| 39   | 清尻寺跡       | 寺跡     | 近世        | 111   | 山上藤山古墳  | 古墳       | 古墳       |
| (40) | 宮の下内裏塙基    | 古墳     | 古墳        | 112   | 西浦遺跡    | 集落       | 古墳・中世・近世 |
| 41   | 宮山古墳       | 古墳     | 古墳        | 113   | 増福寺跡    | 社寺       | 近世       |
| 42   | 宮山遺跡       | 集落     | 古墳        | 114   | 吉の下遺跡   | 集落       | 平安～中世    |
| 43   | 西伐溝陣跡      | 散布地・城跡 | 飛鳥・奈良・江戸  | 115   | 美町遺跡    | 散布地      | 弥生・古墳・中世 |
| 44   | 上原町墓塙      | 古墳     | 近世        | 116   | 錦町遺跡    | 散布地      | 弥生・古墳・中世 |
| 45   | 御神寺跡       | 寺跡     | 飛鳥・奈良・丹波  | (117) | 大井遺跡    | 散布地      | 編文・中世    |
| 46   | 栗葉山遺跡      | 城館     | 中世～近世     | 118   | 錦町北遺跡   | 集落       | 弥生・中世・近世 |
| 47   | 寺ヶ森遺跡      | 散布地    | 編文        | 119   | 古町西遺跡   | 集落       | 編文・中世    |
| 48   | 上原遺跡       | 散布地    | 田山城・一戸世   | 120   | 宋町南遺跡   | 集落       | 中世       |
| 49   | 佐吉神社遺跡     | 社寺     | 近世以降      | 121   | 柴町東遺跡   | 散布地      | 弥生・中世    |
| 50   | 高向神社遺跡     | 社寺     | 中世以降      | 122   | 楠町東遺跡   | 散布地      | 弥生       |
| 51   | 青が原神社遺跡    | 社寺     | 中世以降      | 123   | 沙の宮町南遺跡 | 散布地      | 弥生・奈良    |
| 52   | 輪所瀬代官所跡    | 城館     | 江戸        | 124   | 沙の宮町遺跡  | 散布地      | 中世       |
| 53   | 双子摩古墳跡     | 古墳     | 古墳        | 125   | 神ガ丘近塙   | 塙基       | 近世       |
| 54   | 愛子尻遺跡      | 敷地・社寺  | 経文・近世     | 126   | 増福寺跡    | 社寺       | 中世以降     |
| 55   | 河合寺遺跡      | 城館     | 中世        | 127   | 三塙城遺跡   | 塙基・城跡    | 中世・近世    |
| 56   | 三日市遺跡      | 集落     | 古墳(後期)    | 128   | 松林寺遺跡   | 社寺       | 近世以降     |
| 57   | 日の谷遺跡      | 城館     | 中世        | 129   | 昭美町遺跡   | 散布地      | 中世       |
| 58   | 高木遺跡       | 散布地    | 編文        | *130  | 東高野街遺跡  | 街道       | 平安以降     |
| 59   | 汐の山城跡      | 城館     | 中世        | *131  | 西高野街遺跡  | 街道       | 平安以降     |
| 60   | 緑山城跡       | 城館     | 中世        | *132  | 高野街遺跡   | 街道       | 平安以降     |
| 61   | 鶴西山城跡      | 城館     | 中世        | 133   | 上原東遺跡   | 散布地      | 弥生・中世・近世 |
| 62   | 国見城跡       | 城館     | 中世        | 134   | 地蔵寺東方遺跡 | 塙基       | 謙倉       |
| 63   | 筑城跡        | 城館     | 中世        | 135   | 木多町北遺跡  | 散布地      | 中世       |
| 64   | 柳城跡        | 城館     | 中世        | 136   | 下里町東遺跡  | 散布地      | 古墳・中世    |
| (65) | 大神社遺跡      | 社寺     | 中世以降      | 137   | あかし台遺跡  | 散布地      | 近世       |
| (66) | 葛城第15縣塙    | 跡塙     | 平安以降      | 138   | 岩瀬丘遺跡   | 集落       | 中世       |
| 67   | 加賀田神社遺跡    | 社寺     | 中世以降      | 139   | 岩瀬近世塙   | 塙基       | 近世       |
| 68   | 庚申堂遺跡      | 社寺     | 近世以降      | 140   | 岡美町東遺跡  | 散布地・馬跡   | 編文・中世・近世 |
| 69   | 石仏城跡       | 城館     | 中世        | 141   | 三日市北遺跡  | 集落       | 弥生・中世    |
| 70   | 佐近城跡       | 城館     | 中世        | 142   | 三日市南遺跡  | 面野に伴生着   | 中世・近世    |
| 71   | 旗尾城跡       | 城館     | 中世        | 143   | 上田町石野跡  | 面野に伴生着   | 中世・近世    |
| 72   | 葛城第16縣塙    | 跡塙     | 平安以降      | 144   | 源尻遺跡    | 散布地      | 編文・古代・中世 |

( ) は地図範囲外 \* は街道につき地図上にプロットせず

第1表 河内長野市遺跡地名表

## 第2節 位置と環境

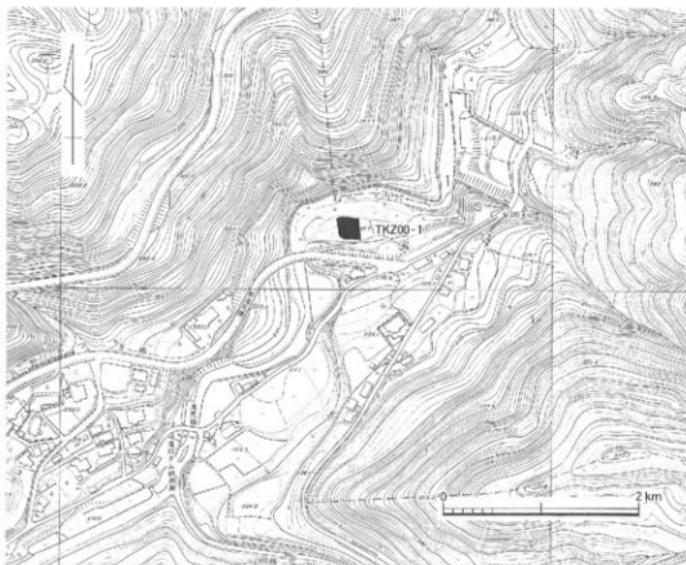
当該遺跡は、河内長野市滝畠に位置する。遺跡の範囲は、東西約0.1km、南北約0.08kmである。

地理的環境としては、和泉山脈に水源を持つ石川の右岸、標高約206mに位置する。遺跡の三方を和泉山脈の山々に囲まれ、石川による狭小な河岸段丘上に営まれている。

歴史的環境としては、北東1.0kmの石川右岸に中世の城館の旗藏城跡、南1.2kmの滝畠ダム東側の尾根上に権現城跡、南西1.2kmの滝畠ダム左岸に近世の寺院跡である清水阿弥陀堂跡、また北西0.8kmの和泉市との市境には中世の城館である国見城跡が位置している。



第2図 遺跡位置図



第3図 調査区位置図(1/5000)

## 第2章 調査の結果

### 第1節 概要

調査は浄化センター建設工事に伴い、切土を伴う所で、試掘調査において遺構、遺物を検出した箇所について、約22m×約21.7mの調査区を設定した。調査面積は約500m<sup>2</sup>である。調査区北辺より約8mの所で、近世の石垣によって区切られ、上段と下段に割されている。比高差は0.5mである。

調査区表土を機械掘削し、次いで人力による掘削、精査、遺構検出、遺構掘削を行った。遺構平面・断面は、調査員及び調査補助員による測量を実施し、調査区全体は航空撮影による測量を行った。

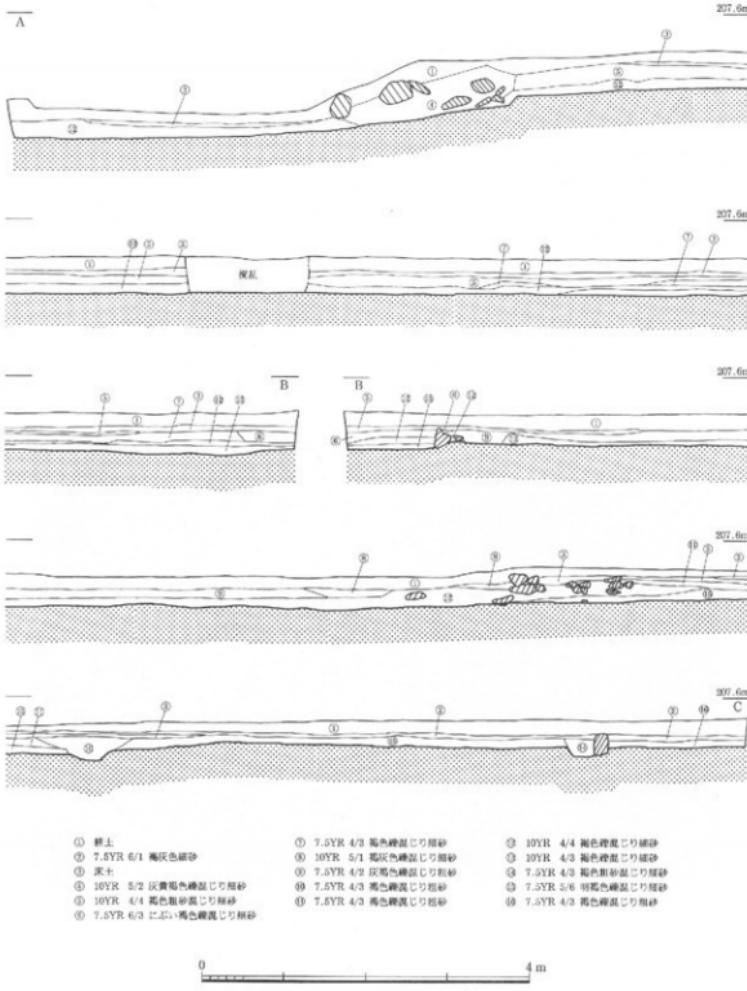
遺構は中世の窯状遺構、土坑、ピットを検出し、遺物は縄文土器、サヌカイトの剝片、古代の土師器、須恵器、中世の土師質土器、瓦器、瓦質土器、陶磁器、瓦、銅鏡が出土した。



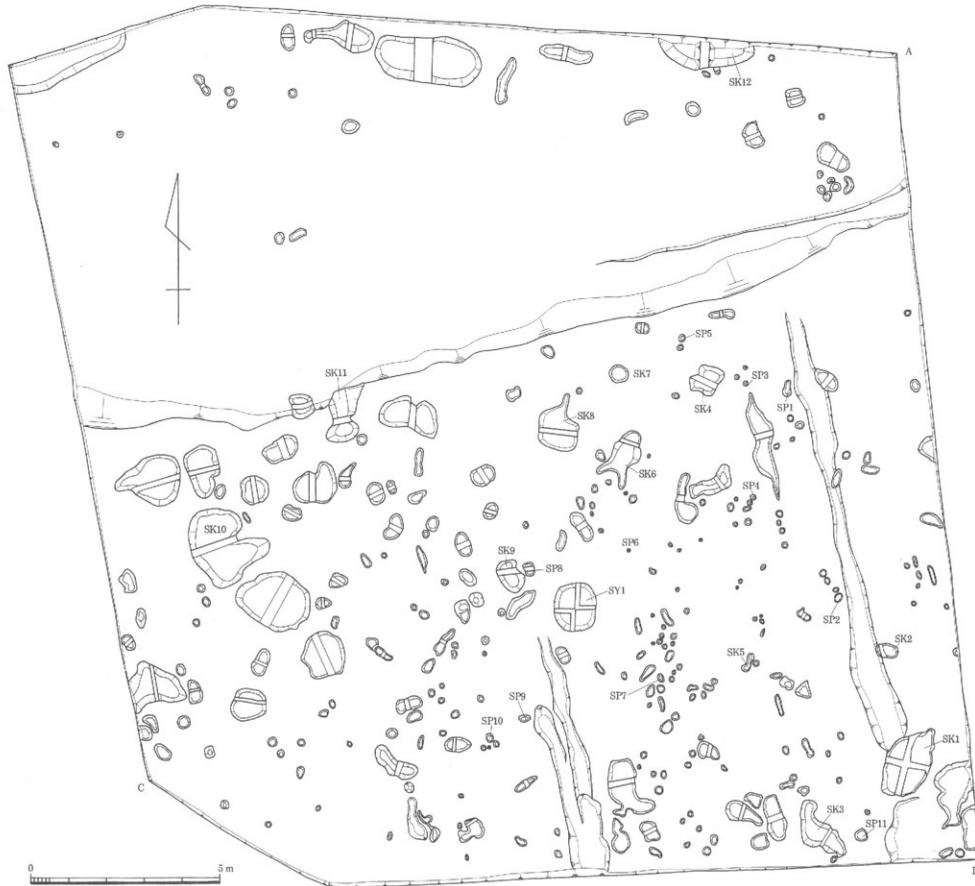
調査地遠景(写真上方は滝畠ダム)

## 第2節 基本層序

基本層序は現地表面から、耕土(層厚0.2m)、床土(同0.05m)、10YR4/4褐色礫混じり細砂(同0.1m)、10YR4/4褐色粗砂混じり細砂(同0.1m)であった。



第4図 調査区土層断面実測図(1/60)



第5図 遺構配置図(1/100)

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 土坑

##### [SK 1] (第6図、図版4)

SK 1は調査区の南東隅に位置する。平面形は不定形である。規模は長軸2.12m、短軸1.22m、深さ0.25mを測る。埋土は5YR6/2灰褐色疊混じり細砂であった。

遺物は土師器甕(4)が出土した。

##### [SK 2]

SK 2はSK 1の北2mに位置する。平面形は梢円形である。規模は長径0.59m、短径0.38m、深さ0.05mを測る。

遺物は土師器が出土したが、小片のため図化出来なかった。

##### [SK 3] (第6図、図版4)

SK 3はSK 1の南西1.6mに位置する。平面形は不定形である。規模は長軸1.67m、短軸0.76m、深さ0.2mを測る。埋土は5YR6/2灰褐色疊混じり細砂であった。

遺物は繩文土器(1・2)、土師質土器が出土した。

##### [SK 4]

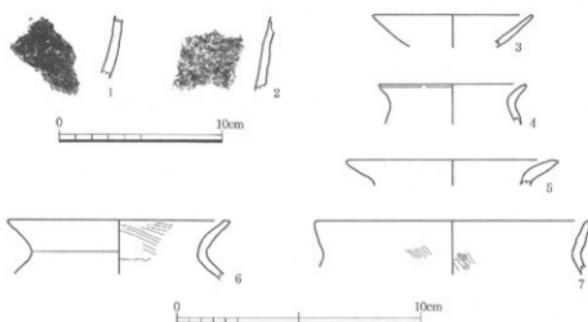
SK 4は調査区の中央東寄りに位置する。平面形は不定形である。規模は長軸1.0m、短軸0.75m、深さ0.25mを測る。埋土は5YR6/2灰褐色疊混じり細砂であった。

遺物は土師器が出土したが、小片のため図化出来なかった。

##### [SK 5]

SK 5はSK 2の西3.2mに位置する。平面形は不定形である。規模は長軸0.52m、短軸0.21m、深さ0.02mを測る。埋土は5YR6/2灰褐色疊混じり細砂であった。

遺物は土師質土器が出土したが、小片のため図化出来なかった。



第6図 SK 1 + 3 + 6 + 9出土遺物実測図

#### 〔SK 6〕（第6図、図版4）

SK 6はSK 4の南西1.8mに位置する。平面形は不定形である。規模は長軸1.57m、短軸0.76m、深さ0.2mを測る。埋土は5YR6/2灰褐色疊混じり細砂であった。

遺物は土師器甕(6)が出土した。

#### 〔SK 7〕

SK 7はSK 4の西1.6mに位置する。平面形は円形である。規模は径0.5m、深さ0.12mを測る。埋土は5YR6/2灰褐色疊混じり細砂であった。

遺物は土師器甕が出土したが、小片のため図化出来なかった。

#### 〔SK 8〕

SK 8はSK 7の南西1.5mに位置する。平面形は不定形である。規模は長軸1.53m、短軸1.06m、深さ0.1mを測る。埋土は5YR6/2灰褐色疊混じり細砂であった。

遺物は土師器が出土したが、小片のため図化出来なかった。

#### 〔SK 9〕（第6図、図版4）

SK 9はSK 6の南西3.6mに位置する。平面形は不定形である。規模は長軸0.92m、短軸0.61m、深さ0.15mを測る。埋土は5YR3/2暗赤褐色疊混じり粗砂であった。

遺物は土師器高杯(3)・甕(5・7)が出土した。

#### 〔SK 10〕

SK 10はSK 9の西6.0mに位置する。平面形は不定形である。規模は長軸2.13m、短軸2.01m、深さ0.19mを測る。埋土は5YR6/2灰褐色疊混じり細砂で、炭化物が含まれていた。

遺物は出土しなかった。

#### 〔SK 11〕

SK 11はSK 10の北東3.1mに位置する。平面形は北側が切られている為、詳細は不明である。検出規模は長軸1.36m、短軸0.89m、深さ0.21mを測る。埋土は5YR3/2暗赤褐色疊混じり粗砂であった。

遺物は土師器甕が出土したが、小片のため図化出来なかった。

#### 〔SK 12〕

SK 12は調査区の北側に位置する。平面形は北側が切られている為、詳細は不明である。検出規模は長軸2.55m、短軸0.9m、深さ0.44mを測る。埋土は5YR6/2灰褐色疊混じり細砂であった。

遺物は土師質土器、瓦器、瓦質皿が出土したが、小片のため図化出来なかった。

## 2 遺物出土ピット

#### 〔SP 1〕

SP 1はSK 4の南東2mに位置する。平面形は不定形である。規模は長軸0.44m、短軸0.24m、深さ0.08mを測る。埋土は5YR6/2灰褐色疊混じり細砂であった。

遺物は土師器が出土したが、小片のため図化出来なかった。

#### [S P 2]

S P 2はS K 2の北西1.5mに位置する。平面形は橢円形である。規模は長径0.27m、短径0.19m、深さ0.04mを測る。

遺物は土師器が出土したが、小片のため図化出来なかった。

#### [S P 3]

S P 3はS P 1の北西1.3mに位置する。平面形は円形である。規模は径0.13m、深さ0.09mを測る。埋土は5YR3/2暗赤褐色疊混じり粗砂であった。

遺物は土師器が出土したが、小片のため図化出来なかった。

#### [S P 4]

S P 4はS P 3の南2.9mに位置する。平面形は円形である。規模は径0.16m、深さ0.06mを測る。埋土は5YR3/2暗赤褐色疊混じり粗砂であった。

遺物は土師器甕が出土したが、小片のため図化出来なかった。

#### [S P 5]

S P 5はS P 3の北西1.7mに位置する。平面形は橢円形である。規模は長径0.21m、短径0.17m、深さ0.04mを測る。埋土は5YR6/2灰褐色疊混じり細砂であった。

遺物は土師器甕が出土したが、小片のため図化出来なかった。

#### [S P 6]

S P 6はS K 6の南1.6mに位置する。平面形は円形である。規模は径0.1m、深さ0.02mを測る。

遺物は土師器甕が出土したが、小片のため図化出来なかった。

#### [S P 7]

S P 7はS P 6の南3.3mに位置する。平面形は橢円形である。規模は長径0.24m、短径0.15m、深さ0.05mを測る。埋土は5YR6/2灰褐色疊混じり細砂であった。

遺物は土師質土器が出土したが、小片のため図化出来なかった。

#### [S P 8]

S P 8は調査区の中央、S K 9の東側に接して位置する。平面形は不定形である。規模は長軸0.36m、短軸0.29m、深さ0.08mを測る。埋土は5YR3/2暗赤褐色疊混じり粗砂であった。

遺物は土師器が出土したが、小片のため図化出来なかった。

#### [S P 9]

S P 9はS P 8の南3.6mに位置する。平面形は不定形である。規模は長軸0.31m、短軸0.19m、深さ0.08mを測る。埋土は5YR6/2灰褐色疊混じり細砂であった。

遺物は土師器甕が出土したが、小片のため図化出来なかった。

#### [S P 10]

S P 10はS P 9の南西0.8mに位置する。平面形は不定形である。規模は長軸0.24m、

短軸0.19m、深さ0.05mを測る。埋土は5YR6/2灰褐色礫混じり細砂であった。

遺物は土師器壺が出土したが、小片のため図化出来なかった。

#### [S P11]

S P11はS K 3の東0.4mに位置する。平面形は円形である。規模は径0.35m、深さ0.07mを測る。

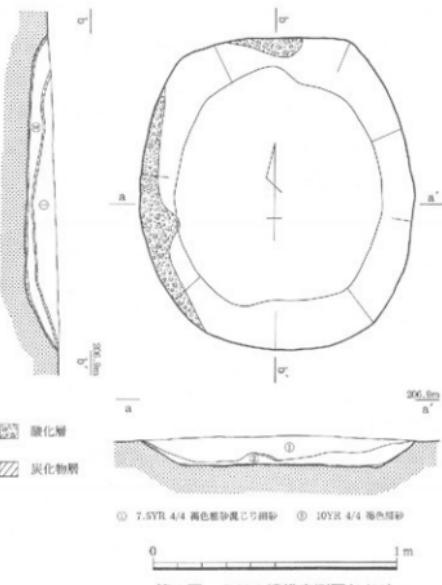
遺物は土師器が出土したが、小片のため図化出来なかった。

### 3 窯状遺構

#### [S Y 1] (第7図、図版3)

S Y 1は調査区の中央に位置する。平面形は橢円形である。規模は長径1.35m、短径1.17m、深さ0.13mを測る。遺構の周囲の一部には赤色酸化層がみられ、埋土には炭化物層が確認できた。生産物は不明であるが、天井部を持たない窯であったと考えられる。

遺物は出土しなかった。



#### 4 包含層 (第8図、図版4・5)

包含層からは縄文土器(8～15)、土師器高坏(16・17)・壺(19～21)・土釜(18)、須恵器坏身(22)、土師質皿(23～30)、瓦器塊(31～35)、瓦質皿(36)、須恵質練鉢(38)、陶磁器(37)、サヌカイトの剥片、銅錢(39)が出土した。

縄文土器(8)は復元口径15.8cmを測る深鉢で、口縁端部に刻み目を施し、胴部下半部に網目が残る。後期前葉と考えられる。(9)は縄目が残る胴部破片で、(11～13)は口縁端部である。(10～15)は植物繊維による条痕が認められる。いずれも晩期のものと考えられる。須恵器坏身(22)は陶邑I-4段階にあたると考えられる。

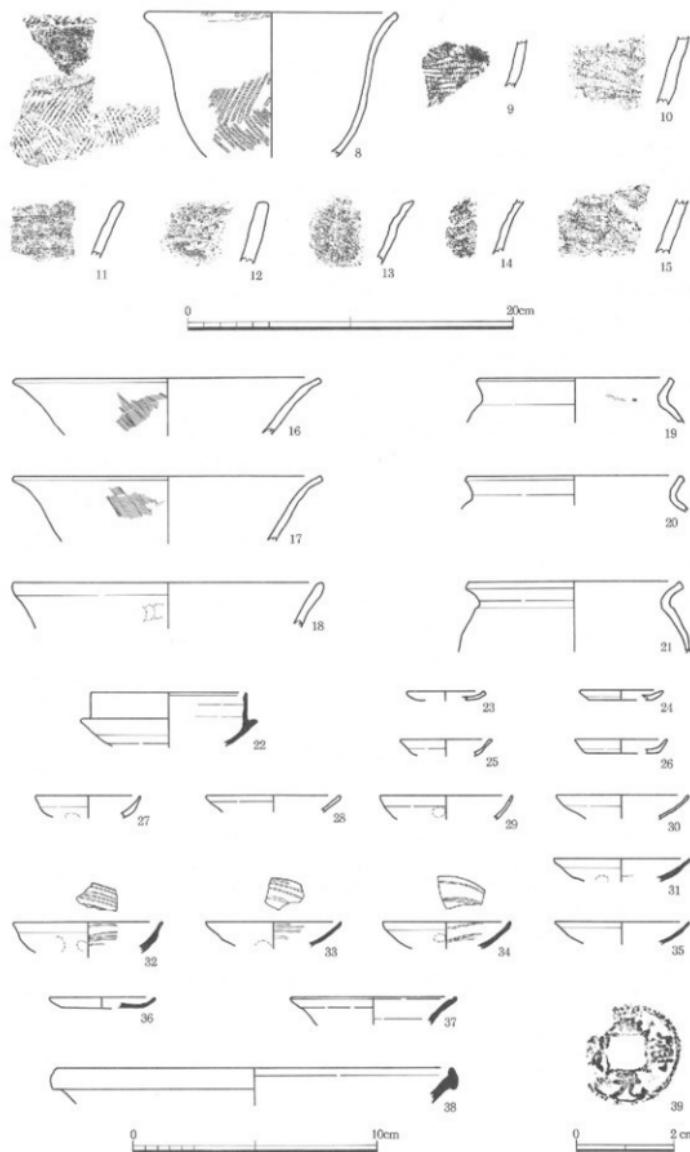
瓦器塊(31～35)は和泉型瓦器碗で、尾上編年のIV-3～4期にあたると考えられる。

須恵質練鉢(38)は束縛系で、鋤柄分類・編年の第II期～第2段階にあたると考えられる。

陶磁器(37)は唐津皿である。

銅錢(39)は熙寧元宝(北宋、初鑄1068年)である。

第7図 S Y 1 遺構実測図(1/20)



第8図 包含層出土遺物実測図

## 第3章　まとめ

調査の結果、縄文時代後期～晩期の土器が検出されたことから、石川流域の縄文時代の遺跡の分布を考える上で貴重な成果が得られた。当該調査以前、石川の上流域で確認されている縄文時代の遺跡は前期の高向遺跡や、対岸で堅穴住居が確認されている中期末の宮山遺跡<sup>註1</sup>、それより0.5km上流の石器散布地である高木遺跡であった。しかし、今回、高木遺跡から更に3.5km上流の滝畠の、山に挟まれた狭小な斜面地でも遺跡が発見されたことから、時期的な問題を除外すると、遺跡間の距離的、立地的な観点から高木遺跡と滝尻遺跡との間に新たな縄文時代の遺跡が存在する可能性が考えられる。このような傾向は、河内長野市内で金剛山地を水源とする、石川の支流である石見川流域の中後期の太井遺跡<sup>註2</sup>、寺元遺跡<sup>註3</sup>でも地理的に、遺跡間の距離などにおいても、同様に観察できる。

古代については、検出された遺構ではなく、また周辺に直接関連の考えられる遺跡が存在しないことから、その性格の詳細は不明である。

中世については、滝畠村として人々の生活が滝尻においては、すでに14世紀中には始まっていたことが確認できた。

以上の結果、滝畠では初めての発掘調査であったが、縄文時代、古代、中世の各時代の営みが確認できたことは成果であった。今後は更に滝畠の歴史が窺える資料の増加が望まれる。

註1　岡本　洋氏(立命館大学大学院生)にご教示いただいた。

註2　『河内長野市史第1巻（上）本文編考古』 河内長野市役所 1994年3月

註3　『河内長野市埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 宮山遺跡 西之山町遺跡 岩湧寺遺跡 勝所裏陣屋跡』 河内長野市教育委員会 1988年3月

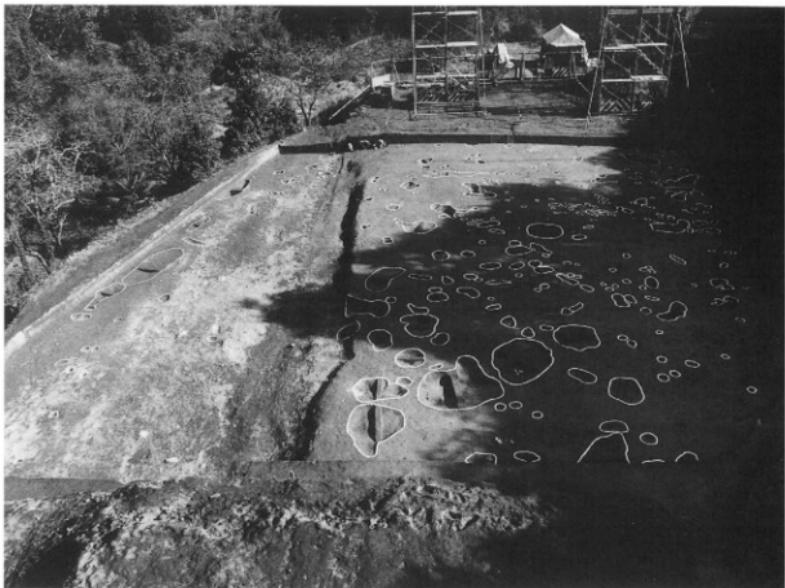
註4　『河内長野市遺跡調査会報XII 太井遺跡 観心寺遺跡』 河内長野市遺跡調査会 2000年3月

註5　『河内長野市遺跡調査会報XI 寺元遺跡』 河内長野市遺跡調査会 1995年3月

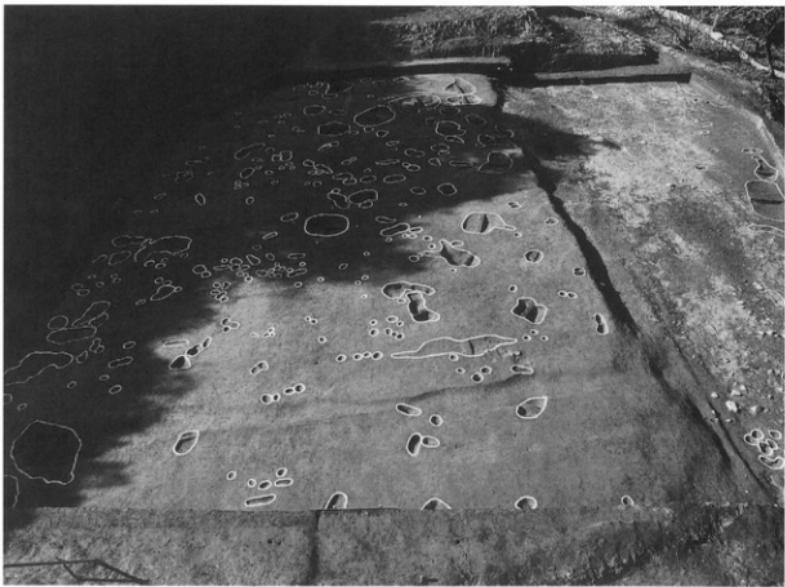
# 図 版



調査区全景



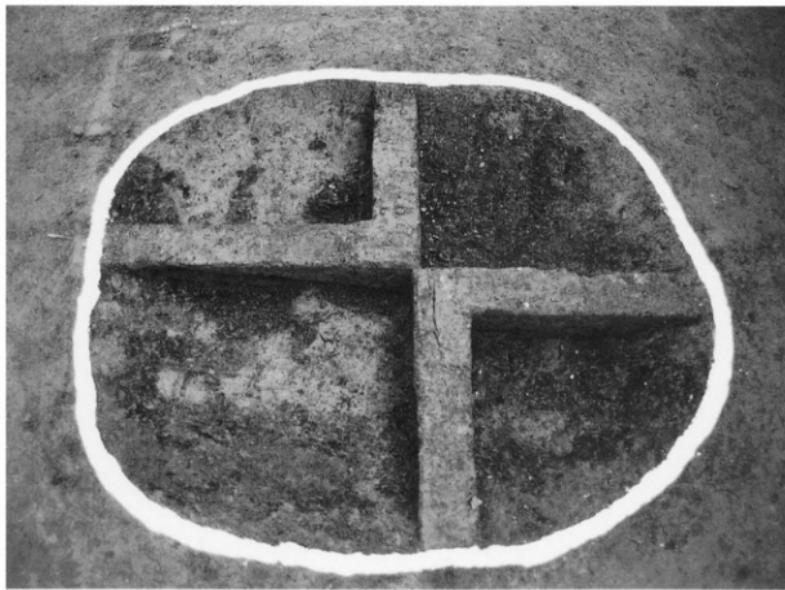
調査区全景（西から）



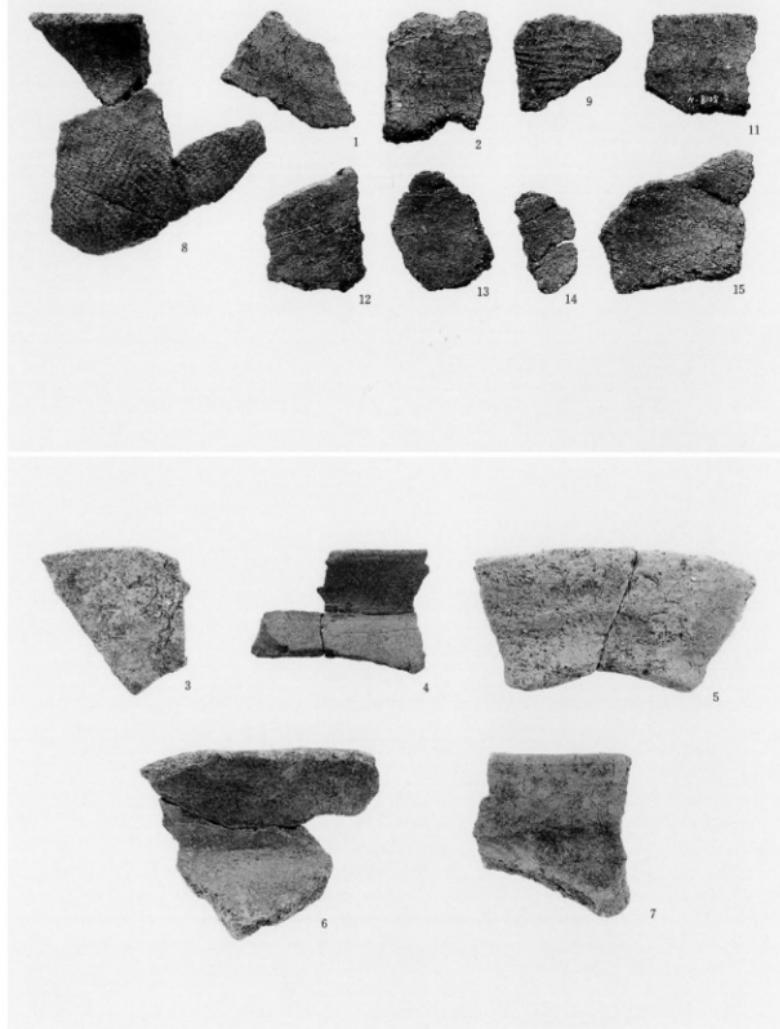
調査区全景（東から）



調査区北部（西から）



S Y 1 (東から)



SK 1 (4)、SK 3 (1·2)、SK 6 (6)、SK 9 (3·5·7)、包含層 (8·9·11~15)



包含層 (16~22・24~29・31~39)

## 報告書抄録

|        |  |
|--------|--|
| ふりがな   | たきじりいせき                                  |
| 書名     | 滝尻遺跡                                     |
| 副書名    | 河内長野市遺跡調査報告XXIV                          |
| シリーズ名  | 河内長野市遺跡調査報告                              |
| シリーズ番号 | XXIV                                     |
| 編著者名   | 尾谷雅彦 烏羽正剛 太田宏明                           |
| 編集機関   | 河内長野市教育委員会 河内長野市遺跡調査会                    |
| 所在地    | 〒586-8501 大阪府河内長野市原町396-3 電 0721-53-1111 |
| 発行年月日  | 2001年3月31日                               |

| 所収遺跡 | 所在地                | コード   |           | 北緯                | 東経                 | 調査期間                        | 調査面積               | 調査原因     |
|------|--------------------|-------|-----------|-------------------|--------------------|-----------------------------|--------------------|----------|
|      |                    | 市町村   | 遺跡        |                   |                    |                             |                    |          |
| 滝尻遺跡 | 大阪府<br>河内長野市<br>滝畠 | 27216 | 府<br>河144 | 34°<br>32'<br>58" | 135°<br>32'<br>07" | 2000.12.5<br>~<br>2001.3.28 | 約500m <sup>2</sup> | 浄化センター建設 |

| 所収遺跡名 | 種別  | 主な時代           | 主な遺構           | 主な遺物   | 特記事項                      |
|-------|-----|----------------|----------------|--|---------------------------|
| 滝尻遺跡  | 散布地 | 縄文<br>古代<br>中世 | 土坑<br>ピット<br>窯 | 縄文土器<br>土師器<br>須恵器<br>土師質土器<br>瓦器<br>須恵質土器<br>陶器<br>銅錢 | 石川の最上流に位置する縄文遺跡である事が判明した。 |

河内長野市遺跡調査報告ⅩⅩ

## 滝 尻 遺 跡

---

2001年3月31日発行

発 行 大阪府河内長野市原町396-3

河内長野市教育委員会

河内長野市遺跡調査会

0721-53-1111

印 刷 倉中島弘文堂印刷所

---

